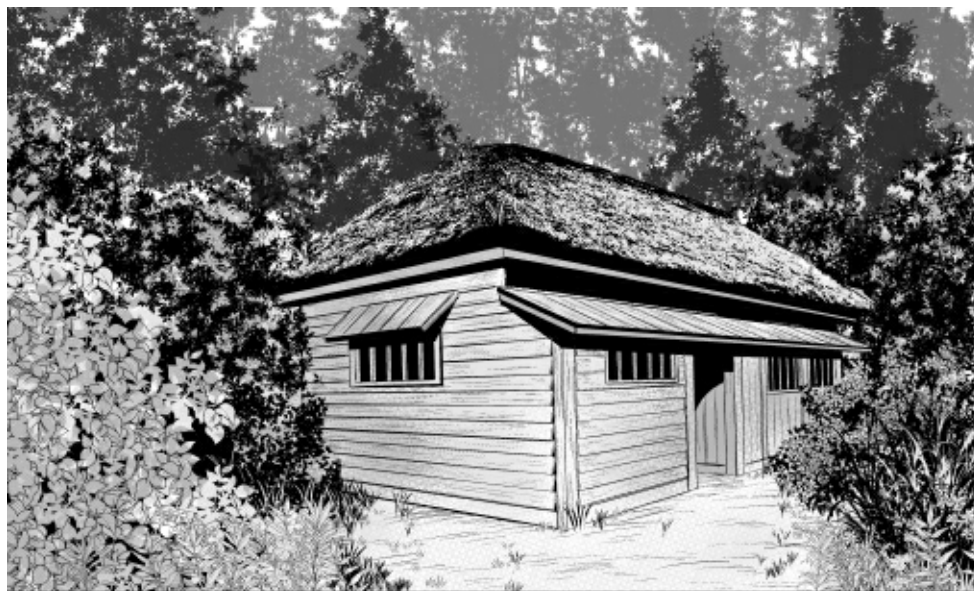




明治四年  
高山・位山山麓

使節団が帰国して  
11年が経った



……わたしは  
夢でも見とったんかの……

あのアメリカへの旅も  
そこで見たものも  
そして日本で夢見た未来は  
すべて幻じゃったか……



……

**11**

重刊國海叢日記

構成 川合登志和  
漫画 秋桜

返礼の大砲が打たれない……  
これはかなり深刻な  
状況なのかもしれぬ

アメリカ側から贈られた銃砲等の説明をする士官には「有能な者を留めおくのは忍びない」と帰国を促したほどであった

当然三使も  
アメリカの見聞を  
話すことなど  
できるはずもなく



翌年には高山へ行って  
お役人の富田礼彦様に  
アメリカ話をお聞かせして  
箱書きももらったの

わしは役人ではないからの！  
賄い方の命を狙う者もおらんし  
故郷へ帰ってからも持ち帰ってきた  
土産を持参しながらあちこちに  
話をしに行っておったわ

そんな空気の日本で喜々として  
アメリカ話をする人物がいた



伊藤圭介  
「おしや・めしや」などの単語を  
作った人

その後名古屋へ旅に出て  
尾張藩重臣・大道寺玄蕃様や  
医師の伊藤圭介殿にも  
アメリカの旅の話をお聞かせ  
したんじやよ



喜んで！

そこで素毛は二晩かけてじっくり  
アメリカへの旅を話してきかせた

あなたの話は面白い！  
まさに爽快にして  
流水の如しでござった  
よかったら私の屋敷へ  
きて詳しく聞かせて  
もらえないだろうか？

その大道寺玄蕃へ洋行談を  
聞かせる場に同席していた  
一人の武士が  
素毛に声をかけてきた  
水野正信という大道寺家の  
家臣であった



この記録はすごい！  
勝殿の記録とも符合する！

「其話二席にして始終と  
一通するか故に  
これをふたよかたりと  
名つくとしかいふ」

水野正信は「二夜語」のみでなく  
編纂した資料だけで四百冊を  
超えるほどの文化人でもあった  
これらの書物は現在名古屋の  
蓬左文庫に保管されている



ええ  
どうぞ

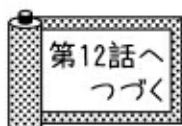
これは稀有な記録です  
もしよかったらこの記録を  
お貸し願えないでしょうか  
写本をとりたいたのですが







梅村騒動  
飛騨県知事の梅村速水の政策に  
不満を持った農民たちが役人宅や  
梅村側と思われる屋敷を襲った  
当時の加藤家も梅村知事の政策に  
携わったため暴徒の襲撃を受けた



次回予告



おまけ

そんなことじゃったから  
皆記録の日付が一日ずれて  
おつてな  
日本に帰国した時に一日  
日付がずれておることに  
はじめて気づいたんじやよ

現代では当たり前のことなんじやが  
西へ進むときに日付変更線を越える  
その時に一日時計をずらすんじやが  
当時のわしらは日付変更線なんて  
わからんからの  
皆海の上に線が引かれてるもんじやと  
思っ探しておったわ

キョロキョロ